学校番号	327

令和８年度　数学科（普通科）

教科	数学科	科目	看護数学α	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「10 日あればいい！　2027　大学入試短期集中ゼミ　看護・医療系のための数学Ⅰ・A」（実教出版）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では、課題に対して、自ら考え、周りの人と協働で考える活動を行います。
・看護系の進学に必要な数学Ⅰ＋A の知識を復習し、応用的な問題にも取り組みます。
・「１年次に学んだ内容で忘れてしまっている部分の知識を埋める」→「基本的な問題を演習する」→「応用的な問題に取り組む」を繰り返し、数学の問題を解く力の定着を図ります。

2　学習の到達目標

数学Ⅰ，数学Ａの分野の問題演習を通して、
【知識及び技能】
基本的な原理・法則を理解し、公式等を用いて適切に解答を導くことができる。
【思考力、判断力、表現力等】
解答に至るまでの過程が論理的で、適切に数式等を用いて表現できる。
常に批判的に考察し、よりよい解法を目指して考察し、改善していくことができる。
【学びに向かう力、人間性等】
数学のよさを認識し、それらを活用する態度をもって問題に取り組める。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数学の基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し、正確に答えを出す力を身につける。	問題文を熟読し、何を聞かれていて、何を求めなければならないかを判断し、分かりやすい表現で解答を記述する力を身につける。	基本的な問題を自力で解けるようになったら、それを応用して応用問題に挑戦する姿勢を身につける。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	数と式	・整式の計算・因数分解 ルートの計算	a: 乗法公式及び因数分解の公式の意味や複雑な式が簡単な式に帰着できることを理解している。乗法公式や因数分解の公式などを用いて、式を目的に応じて変形することができる。 b: 一つの文字に着目したり、一つの文字に置き換えたりするなどして、いろいろな式の見方をすることや、目的に応じて、的確に式を変形する方法を考察することができる。 c: 具体的な事象の考察に式の展開や因数分解などを活用しようとしている。	定期考査 確認ﾃｽﾄ	定期考査 レポート課題	ノート（授業プリント） ワークプリント 課題 振り返りシート 観察
	2次関数	・２次関数のグラフ等 ・２次関数の最大最小等	a: ２次関数の式やグラフの特徴について理解している。グラフの平行移動・対称移動について理解している。グラフの軸と頂点を調べ、グラフをかくことができる。グラフの対称移動の一般公式を利用して、対称移動後の放物線の方程式を求めることができる。 b: ２次関数の式とグラフを関係付けて考察することができる。放物線の平行移動を、頂点の移動に着目して考察することができる。 c: ２次関数とそのグラフについて関心をもち、それらを二次関数の考察に活用しようとしている。			

2学期	三角比	・三角比・正弦余弦定理等	a：三角比の意味を理解し、値を求めることができる。三角比の相互関係について理解し、与えられた三角比の値から残りの三角比の値を求めることができる。鈍角まで拡張した三角比の意義を理解している。 b：具体的な事象を三角比の問題としてとらえることができる。三角比の相互関係や鈍角まで拡張した三角比について考察することができる。 c： 鋭角の三角比や三角比の相互関係に関心をもち、それらを直角三角形の計量に活用しようとしている。鋭角の三角比を鈍角まで拡張する考えに関心をもち、それらを図形の性質の考察に活用しようとしている。	定期考査 確認ﾃｽﾄ	定期考査 レポート課題	ノート（授業プリント） ワークプリント 課題 振り返りシート 観察
	場合の数	・順列・組合せ	a:和集合や補集合について理解し、その要素の個数を求めることができる。具体的な日常の事象に対して、集合を考えることで、人数などを求めることができる和の法則、積の法則の利用場面を理解し、事象に応じて使い分けて場合の数を求めることができる。 b:ベン図を利用して集合を図示することで、集合の要素の個数を考察することができる。場合の数、順列・組み合わせを、見方を変えたり別なものに対応させたりして処理することができる。 c:表を作って集合の要素の個数を求める方法に興味を示し、それを利用しようとする。順列と組合せの違いに興味・関心を持つ。			
3学期	確率	・確率	a:確率の性質を理解し、さまざまな確率の求め方が分かる。また、求めることができる。 期待値の定義を理解し、求めることができる。 b:さまざまな試行の確率について考察することができる。結果が負荷時綱状況下において、どの選択肢が有理かを判断する基準として、期待値の考えを用いて考察することができる。 c:統計的な確率と数学的な確率の違いに興味・関心をもつ。さまざまな確率についての考えに興味・関心をもち、積極的に活用しようとする。	定期考査 確認ﾃｽﾄ	定期考査 レポート課題	ノート（授業プリント） ワークプリント 課題 振り返りシート 観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度